

医療福祉の地域創造会議 通信 第150号

第142回ワーキンググループ会議 (R8.9.17)

自治会主催で17年間継続開催をしてきた「五個荘地区認知症行方不明者早期発見・保護訓練」

●話題提供者 (Zoom)

○小串医院 名誉理事長 小串 輝男 さん

○社会福祉法人六心会 地域密着型特別養護老人ホームきいと 辻 薫 さん

9月は、小串医院 名誉理事長 小串 輝男さんと、社会福祉法人六心会 地域密着型特別養護老人ホームきいと 辻 薫さんより、Zoom で話題提供をしていただきました。

声かけの判断ポイント

不自然な様子、危うい様子、困っている様子などがないか。

声のかけ方の留意点

- ・まずは見守る。
- ・前から声をかける。後ろから声をかけない。
- ・まずは挨拶、自己紹介。
- ・優しい声でゆっくりと話す。
- ・一度にたくさん話さない。相手の困りごとをきく。
- ・肩をたたいたり、振り向かせたりしない。
- ・無理な誘導や、大声で話しかけたりしない。
- ・「一緒にしても良いですか」という感じで。

認知症の方への接し方・対応の心得 (3つのない)

- ・驚かせない・急がせない・尊心を傷つけない

訓練当日

より多くの搜索者に声をかけてもらうことが大切。

【行方不明者役】服装の工夫：オレンジのジャンパー
歩き方の工夫：地図を頭に入れ効率よく



小串 輝男さん

東、南、北の3地区に分け、3年に一度担当が回る。

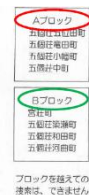


辻 薫さん

八日市保健所主導で八日市市建部地区で開催されたことがきっかけ。第1回平成21年より今年で17回目を迎える。

認知症を地域で支える。

地域包括ケアの確立の一環としてやっている。



認知症の理解を広めるための研修実施。訓練当日に役立つように研修を行う。

命の大切さを考え、たとえ認知症になっても安心して住み続けられる地域づくり、地域全体で見守りの雰囲気作りを広めていくことが目的。

地域、行政、医療福祉関係者がひとつになり、今後も活動の継続を願う。

どうして17年間継続できたのか

地域の行政の方々の理解や、行政から地域への継続的な働きかけなどがあったから。五個荘支所の方の力が非常に大きい。

訓練を通じて色んな波及効果、見える関係になってきている。そういう意味でこの事業は非常に大事、意味がある。

参加者の声

- ・17年続いていることがすごい。
- ・誰か舵を取る方がいないとなかなか現実的に続けることが難しい。
- ・近所付き合いがあれば、情報共有もできるが、今は近所に誰が住んでいるかわからないので、ちょっとでも共有していきたい。
- ・大変なことになる前に行方不明者を公表して発見につなげる。
- ・こういうことを子どもから高齢者まで世代間で取り組むことも大事な。
- ・行方不明当日の服装で覚えていると、もしかしたら上着を脱いだりすることもある。そのことをわかっていることも大事なのかな。
- ・地域のイベントを通してみんなが関わっていくことが大事。
- ・地域の関係性が核だが、面倒なイメージがあるため、工夫が必要になるのでは。
- ・当事者とご家族と地域連携が必要だが、希薄になってきている。
- ・声をかけづらい場合、間接的に聞いたりするところがあれば、ハードルが下がるのでは。
- ・訓練の積み重ねが地域の認知症の理解につながったのでは。
- ・行方不明など緊急事態が起きて初めて地域の方と協力するのではなく、平時から常にいろんな方と関係性がある、それがいざという時に一緒に動けるのかなということを実感した。

【次回ワーキンググループ会議】

○日時：令和8年10月22日(木) 18:30~20:00

○場所：滋賀県庁新館7階大会議室 (Web可)

○テーマ：「人にも動物にも優しい地域づくり」

○話題提供者：滋賀県動物愛護推進員 田中 ヒロヤ さん



医療福祉の地域創造会議 事務局

(滋賀県庁 医療福祉推進課内)

Tel 077-528-3529

e-mail info@chiikisouzoukaigi-s higa.jp